

第1分科会 カリキュラムマネジメントの推進

『中山間地域の伝統や地域人材を生かした カリキュラムマネジメントの推進』

【南会津支会】

檜枝岐村立檜枝岐中学校 小野 泰弘

I はじめに

南会津郡

- 福島県の南西部。
- 3町1村に7つの中学校。
 - ・ 南会津町 (4校)

田島中学校	168名
荒海中学校	28名
南会津中学校	58名
館岩中学校	15名
 - ・ 下郷町 (1校)

下郷中学校	111名
-------	------
 - ・ 只見町 (1校)

只見中学校	69名
-------	-----
 - ・ 檜枝岐村 (1校)

檜枝岐中学校	19名
--------	-----



Ⅱ 研究の内容

1 研究の方向と視点

共通課題

- 過疎化少子高齢化⇒地域を愛し未来を担う人材の育成。
- 変化の激しい社会⇒たくましく生き抜いていく力の育成。



視点3 「地域等の外部の人的・物的資源を有効活用し、家庭や地域社会との連携・協働を深める教育課程の編成・実施・評価」

- ・校長として
- ・中山間地域の強みを生かす

Ⅱ 研究の内容

2 具体的な実践

視点3

「地域等の外部の人的・物的資源を有効活用し、家庭や地域社会との連携・協働を深める教育課程の編成・実施・評価」

地域全体の教育力の広がり

教育課程における共通の工夫

各校の実践をテーマ別に整理

- 1 自然環境・地域フィールドの活用
- 2 郷土料理・伝統文化の継承
- 3 地域産業・SDGs・循環型社会の学び
- 4 地域人材との協働・キャリア教育
- 5 地域貢献・世代間交流・郷土愛の育成
- 6 教科横断・総合的な学習の時間の活用

学習効果の最大化

価値を見える化

(1) 自然環境・地域フィールドの活用



タイトル：地域の自然を活かした学び
～地域の自然を“生きた教材”として～

背景：南会津地域の森林率93%、豊かな自然環境

教育的意義：五感を使った体験、環境保全意識の醸成

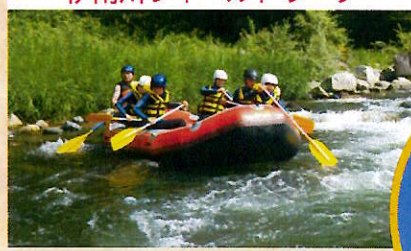
教育課程との接続：総合・理科・道徳との横断

(1) 自然環境・地域フィールドの活用

地元ガイドと共に尾瀬体験学習



伊南川フィールドワーク



駒止湿原での自然体験学習



地元百名山登山（会津駒ヶ岳）



地域の自然資源と教育課程を結び、学校・家庭・地域が連携して支える

(2) 郷土料理・伝統文化の継承

タイトル：文化をつなぐ学び
～地域の味と技を未来へつなぐために～

背景：南会津の伝統芸能・食文化の豊かさ

教育的意義：世代間交流、地域への誇り

教育課程との接続：家庭科・総合・表現活動



(2) 郷土料理・伝統文化の継承

地域の技と心
を教育課程に
組み込んで、
世代を超えた
学びを実現



郷土料理研究家を招いて



地域講師による郷土料理実習



老人クラブと舞殿清掃

(3) 地域産業・SDGs・循環型社会の学び



タイトル：地域産業と持続可能な社会
～地域の仕事から社会を学ぶ～

背景：地域資源の循環、脱炭素、SDGsの視点

教育的意義：社会参画、課題解決力の育成

教育課程との接続：総合・社会・技術・家庭科

(3) 地域産業・SDGs・循環型社会の学び

地域の仕事や役割を教育課程に組み込み、社会参画の力を育てる取組



製材所で木材の循環利用学習



新聞紙レジ袋作り



森林組合との伐採体験

(4) 地域人材との協働・キャリア教育



タイトル：地域人材を活かしたキャリア教育
～地域の“生きた先生”と出会う～

背景：地域の専門性・経験・価値観の豊かさ

教育的意義：職業理解・自己肯定感・人間形成

教育課程との接続：総合・道徳・特別活動・進路指導

(4) 地域人材との協働・キャリア教育



助産師による命の授業



元ユネスコ職員の講演



地域人材によるキャリア教育



役場職員との対話

多様な価値観
に触れ、自分
らしい生き方
を考え、社会
とつながる力
を育む学び

(5) 地域貢献・世代間交流・郷土愛の育成



タイトル：地域とつながる心を育てる
～地域と“共に生きる”学び～

背景：過疎化・高齢化・地域の支え合い文化

教育的意義：郷土愛・感謝・自覚・世代間交流

教育課程との接続：総合・道徳・特別活動・地域行事

(5) 地域貢献・世代間交流・郷土愛の育成



自作玩具による保育体験



地域住民との文化祭交流



地域祭りへの参加



集会所清掃ボランティア

地域との協働や世代間交流を通じて、
地域の一員としての誇りと自覚を育み、
郷土愛を培う
学び

(6) 教科横断・総合的な学習の時間の活用

タイトル：総合的な学習を核にした教育課程
～地域とつながるカリキュラム設計～

背景：断片的な活動から構造的な学びへ

教育的意義：教科横断・探究・地域連携の深化

教育課程との接続：総合・教科連携・年間指導計画

(6) 教科横断・総合的な学習の時間の活用



下郷町と自分の未来を築く。主体的に
関わっていく。このロゴには、それぞれの思いが
込められています。

タイトル：総合的な学習を活かした各校の実践

A中：「自然・産業・町づくり」を教科横断型学習

E中：「下郷学」創設（知る・体験する・深める）

G中：「自然・産業・社会」をテーマに展開

総合的な学習の時間を“地域とつながる学びの軸”として位置
づけ、教科横断的な構造の中で、学校・家庭・地域がそれぞ
れの教育機能を発揮しながら、持続可能な教育課程を構築

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 地域に根ざした学びによって、地域からの期待を肌で感じ、生徒の主体性が向上している。
- 地域との連携によって、指導計画において地域性を踏まえるなど教職員の意識改革が進み、実践力の向上につながっている。
- 分掌や学年・教科を越えた連携が進み、教職員が互いの実践を共有しながら改善を図る文化が育ちつつあり、校内の協働体制強化につながっている。

Ⅲ 成果と課題

2 課題

- 新しい取組や活動の創造に対する担当教職員の負荷が大きい。
- 具体的な活動を企画できる、地元に精通する教職員が少ない。
- 目的は共有しながらも、学びの連続性が確保できず、一回完結的なものがある。
- 教育課程の実施後に、子どもの学びの実態や成果をもとにした振り返りが十分に行われていない場合があるため、評価と改善のサイクルが弱い。

IV 2年次に向けた重点項目

1. 教育課程の構造的な見直しと地域資源の再配置

地域の自然・文化・人材を、教科・総合・特別活動にどう位置づけるかを再検討し、年間指導計画に反映

2. 学習評価と成果の可視化の仕組みづくり

探究活動や体験学習の成果を、ルーブリックやポートフォリオなどで記録・共有し児童生徒の成長を見える化

3. 校内体制の強化と教職員の意識統一

地域連携やカリキュラム設計を個人任せにせず、学校全体で取り組む体制づくりと、教職員間の共通理解の醸成